

所属・資格 総合文化研究室・助教

申請者氏名 李 婷

研究課題		Eメールにおけるメタ言語表現の役割
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、非対面コミュニケーションとしての E メールにおけるメタ言語表現の役割を明らかにすることである。そのために、まず、インターネットや教科書で教材化された Eメールの文例を収集し、研究材料とする。次に、収集した Eメールにおけるメタ言語表現を認定した上で、どの種類のメタ言語表現が、どのような文脈で使用され、コミュニケーションでどのような役割を果たしているのかについて分析する。申請者はこれまで話し言葉におけるメタ言語表現を研究してきたが、書き言葉におけるメタ言語表現の特徴はまだ解明できていない。本研究の成果を踏まえて、話し言葉と書き言葉の両方を含むコミュニケーションにおけるメタ言語表現の役割を明らかにすることができるだろう。また、メタ言語表現の角度から、Eメールによるコミュニケーション教育への提言も期待される。
	研究の結果	ビジネス日本語関係の教科書より収集した Eメールの構造分析を行った上で、使用されたメタ言語表現を抽出した。Eメールのどの部分にどのようなメタ言語表現が使用され、どのような役割を果たしているのかについて考察した。まず、開始部と終了部によく使用されるのは、対人関係の調整に関わるメタ言語表現（例：本年も格別のお引き立てを賜り、心よりお礼を申し上げます。）である。展開部によく使用されるのは、メールというコミュニケーション媒体に対する断り（例：本来であれば、直接ご挨拶に伺うべきところですが、急な辞令のために、メールにてのご報告となり、申し訳ありません。）や、表現意図の明示（例：さて、このたび〇〇先生にご講演をお願いいたしたく、ご連絡をさせていただきました。）要件への言及（例：さて、私事で恐縮ではございますが、）、話題の転換（例：別件とはなりますが、）などである。以上の分析から、Eメールの展開的構造を意識したメタ言語表現の使用、および Eメールにおけるメタ言語表現の役割を明らかにした。
	研究の考察・反省	Eメールの送り手は、これらのメタ言語表現によって、受け手との円滑なコミュニケーションを図ろうとすることがわかる。本年度は、教科書で収集した「正しい」Eメールにおけるメタ言語表現の分析を試みたが、実際のメール、特に、日本語学習者の Eメールを収集することには及ばなかった。また、メタ言語表現に対する Eメールの送り手と受け手の意識調査も今後の課題となる。日本語教育において、Eメールにおけるメタ言語表現を学習項目としてどのように位置付けるのか、また、本研究の成果をどのように日本語教育に活かすのかについても、教育の現場で実践を重ねつつ引き続き考えていきたいと思う。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 【研究成果物】 李婷（2020）『日本語教育におけるメタ言語表現の研究』ひつじ書房 李婷（2020）「メタ言語表現とコミュニケーションのメタ認知との関係― 待遇コミュニケーション論の観点から」『待遇コミュニケーション研究』17,pp85-101 李婷（2020）「講義理解の「要約力」におけるメタ言語表現」『講義理解における要約力に関する研究』平成 28～令和元年度（2016～2019 年度）科学研究費補助金基盤研究(C)（一般）課題番号（16K02825）研究成果報告書 研究代表者佐久間まゆみ（印刷中）
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	本研究の成果については、2020 年 5 月に紀要に投稿する予定である。